僕は後悔していない

家へ行こう、会いたい。
理由なんか、どうでもいい。
僕は今、彼女の会いたいだけだ。
行こう、家へ行こう。
家を見つけるまで、今日は家を探して、
絶対、彼女に会うんだ。

僕の足は改札口に向いた。

ポケットから三十円出して、職員の目を見て
僕は「八幡」とはっきり言った。
職員は「はい、おおきに」と愛想良く答えた
その切符を受け取った時、僕の心の中には、
もうムヤムヤしたものはなかった。

大阪行きのフォームへまわり、フォームに
立って電車を待ちながら空を見上げた。
雲一つない、真っ青な空に、
太陽はギラギラ輝き、まぶしかった。

しばらくして、緑色の急行が来た。

電車のドアの窓に顔を寄せながら、
僕は八幡駅に着くまで
外の宇治川沿いの景色をじっと見た。

やがて、八幡の木津川の鉄橋が小さく見えて、
その背景に、八幡の男山（おとこやま）が
こんもり、大きく、浮かびあがった。

Candy in the Heart 578

120 僕は後悔していない……574

萩原良昭